

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

自然、歴史、文化等地域資源を活用した「人づくり」計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

伊那市

3 地域再生計画の区域

伊那市の全域

4 地域再生計画の目標

平成 18 年 3 月 31 日に旧伊那市、旧高遠町、旧長谷村が合併して誕生した伊那市は、長野県の南東部に位置する人口 74,064 人（平成 19 年 4 月 1 日現在）、総面積 667.81 k m²の市である。

本市は西に中央アルプス、東に南アルプスという雄大な二つのアルプスに抱かれた全国的にも類を見ない豊かな自然を有しており、二つのアルプスの間を流れる天竜川、三峰川沿いには全国的にも名高い河岸段丘や田園風景が見られるなど美しい自然景観に恵まれている。

このような豊かな自然環境のなか、歴史・伝統・文化が培われ、信州の教育文化を代表する高遠藩の藩校「進徳館」に象徴される実学重視の教育的風土により、本市から多様な人材を輩出してきた。

しかしながら、近年の急速な少子高齢化や若者の都市部への流出に伴い、市周辺部の過疎化の進展や地域活動を担う人材の不足などの問題が顕在化し、これまで大切にしてきたさまざまな活動が停滞するとともに地域文化の継承が難しい状況になりつつある。また、広大な農地や森林を保全する担い手も不足しており、農地や森林の荒廃化も問題となっている。このような状況のなか、地域を担っていく人材育成は本市における重要な課題となっている。

本市では「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市 ～人と歴史と文化を育む 活力と交流の美しいまち～」を新市の将来像に据え、「まちづくりは人づくり」の考えに基づき、本市の貴重な財産である豊かな自然や歴史、伝統、文化等の地域資源を活用したまちづくりを推進するとともに、地域住民や大学をはじめとする学術・研究機関等と連携して、人間性を重視した人材育成を進めている。

この目標を達成するため、前述した本市の取組に加えて、本市出身で日本の近代教育の礎を築いた伊沢修二先生を縁にした東京藝術大学との連携により、美術や音楽等の芸術文化を発展させるとともに、地域文化の核となる人材の育成を図りながら、住民の文化活動の支援や文化グループ同士の連携促

進を目指す。

また、これらの取り組みを通じて育成した人材を文化芸術団体やサークル等の地域活動の中心的存在として活用することで、芸術文化に関する取り組みの活性化を図るとともに、新たな人材の育成や裾野の拡大につなげる。加えて、これらの活動により住民のコミュニティ意識の醸成等が図られ、地域コミュニティが再生されることにより、地域の活性化、元気で活力のあるまちづくりを目指す。

(目標値1)

項目	数値目標	
小学生音楽指導	70人(H18年度実績)	200人(H20年度末)
中学生ブラスバンド指導	30人(H18年度実績)	90人(H20年度末)
中高生・一般合唱団指導	80人(H18年度実績)	200人(H20年度末)

(目標値2)

項目	数値目標	
伊那市地域づくり団体バンク登録団体数	115団体(H18年度実績)	130団体人(H20年度末)

伊那市を中心とした地域づくりに活躍する、文化・国際交流・教育・福祉・地域コミュニティ・NPO法人など各種団体のデータバンク

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

昭和61年に東京藝術大学が100周年を迎えた際、その前身である東京音楽学校初代校長の伊沢修二先生が旧高遠町出身であったことから、記念事業として「伊沢修二先生記念音楽祭」を開催した。その後は、小中学生や高校生、地元コーラスグループなどの住民を巻き込み、東京藝術大学からの指導を年に数回受けながら、音楽劇の練習や藝大生オーケストラのバックで歌う合唱団を組織するなどして、旧高遠町で同音楽祭を毎年開催してきた。

新市誕生に伴い、音楽に造詣の深い市民も加えた実行委員会を再構築し、旧伊那市が合唱サークルなどの発表の場としてきた「い～な音楽祭」などの文化芸術関係の催しを取り込み、市民の発表の機会を持つ中で、東京藝術大学の音楽学部の指導を受けるなど、同大学とのつながりを活かし、市民の音楽リーダーの養成を目指す。

こうした取り組みを通じて養成したリーダーがサークル活動や文化芸術活動等の場において中心となって活躍することで、芸術文化活動の振興を図ると

ともに、新たな人材の育成や裾野の拡大につなげる。また、芸術文化活動を通じて、住民のコミュニティ意識の醸成等を図ることで、地域コミュニティの再生につなげ、地域自体の活性化、元気で活力のあるまちづくりを実現する。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 地域再生基本方針に基づく支援措置による取り組み

「文化芸術による創造のまち支援事業の活用」による取り組み（C0801）

本市が中心となって構成する伊沢修二先生記念「い～な」音楽祭実行委員会を核として東京藝術大学との連携を図りながら、音楽祭参加者をはじめ、小中高校生、一般愛好者に対して音楽指導を行うことで地域文化のリーダーとなる人材の育成を図るとともに、文化面で市民相互の交流や新市の一体化に寄与する。

音楽祭事前指導

地元指導者への直接指導や、パート別練習などの指導を主体として東京藝術大学の学生が小学生への音楽教育指導（合唱、音楽劇、モノドラマなど）や中高生、一般愛好者で構成される音楽合唱団への指導を行い、個々の技術の向上を図る。

音楽祭当日における指導

音楽祭当日の発表前に総合的な合同練習に対する指導を主体として東京藝術大学の学生が小学生への音楽教育指導（合唱、音楽劇、モノドラマなど）や中高生、一般愛好者で構成される音楽合唱団への指導を行い、全体としての技術の向上を図る。

中学生吹奏楽指導

夏休み期間中を利用し、東京藝術大学の学生が中学校ブラスバンド部への指導を行うことで音楽技術の底上げを図る。

5 - 3 - 2 独自の取り組みによる事業

音楽会の開催

・伊沢修二先生記念音楽祭（第1部）

東京藝術大学の指導を生かし練習を積んだ、市内小中学生による合唱・吹奏楽フェスティバル

- ・伊沢修二先生記念音楽祭（第2部）
東京藝術大学音楽学部4年生オーケストラと、同大学の指導を生かし練習を積んだ、市内中高生・一般参加者による記念合唱団によるコラボレーション
- ・市内小中学校音楽会
東京藝術大学の指導を生かし練習を積んだ、市内小中学校などの音楽祭、コンサート
- ・「い～な」音楽祭2007
市内及び木曽地域からの出演26団体、出演者700人にもおよぶ伊沢修二先生記念合唱団など愛好者の音楽発表の場

地域活動の支援

- ・地域づくり活動支援金事業

【事業概要】

地域にある資源（人、文化、自然など）を活かし、住民が組織する団体が自らの知恵や工夫によって、地域の課題解決に向けてチャレンジする実践的活動を支援することで地域づくり団体の育成を図る。

【対象事業等】

安心安全のまちづくり、地域の活性化、教育・文化・産業の振興、生活環境の整備、自治会組織の充実など、地域の特色を活かした活動

【支援の内容】

本事業により、本計画によって育成された人材が中心的な役割を担う団体等に対し、文化芸術サークルの学習会や地域の資源を活かした地域ブランドの開拓等、地域に根ざした特色ある地域活動を行うにあたって活動の一助となるよう財政的な支援を行う。

- ・コミュニティ振興事業

【事業概要】

市内のコミュニティ組織が独自の地域活性化事業を行うに要する経費に対し支援を行い、地域コミュニティ活動の活性化を図る。

【対象事業等】

郷土芸能及び祭の継承に関する活動
文化及び学習活動に関する活動

【支援の内容】

本事業により、本計画によって育成された人材が中心的な役割を担う団体等に対し、地域の郷土芸能継承のために必要な備品の購入や学習

活動等、他のコミュニティ組織のモデルとなる地域活動を行うにあたって活動の一助となるよう財政的な支援を行う。

6 計画期間

認定の日から平成 21 年 3 月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

庁内関係部署で地域再生計画の確実な進行管理を行うとともに、計画終了後に、4 に示す数値目標に照らし、新市における文化行政の一層の推進を念頭に、実行委員会を中心に状況を調査、検討、評価し、公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし